

子どもの事実から 子どもを主語に
「学校づくり」を問い直しませんか

～「みんなの学校」をつくるために～

大阪市立大空小学校初代校長 木村 泰子



独立行政法人教職員支援機構

「みんなの学校」をつくるために

- 1 「子どもの事実」から問い直す
- 2 「みんなの学校」とは
- 3 「学校観」を転換する
- 4 すべての「人」が学びのパートナーに
- 5 学校の組織文化（空気）を問い直す
- 6 「みんなの学校」はどこでもできる

1 子どもの事実から問い直す

「自殺」「不登校」 過去最多

「不登校」の子どもの声

「みんなと同じようにして学校にいなさい」

「人に迷惑をかけるな」「周りと同じようにしなさい」

当事者からすると**ありのままの自分**を真っ向から否定される場所

ありのままの自分でいることの罪を償えと言われているような暗くて重い

プレッシャーを背負いながら学校に通い続けることがどれだけ難しいか

そのストレスはなにも**学校に行かなくなったからと言って消えるものでも**

なく 一人一人の意識から変わっていかないとしんどい子はいなくなら

ないと思う (高2 N)

2 「みんなの学校」とは

「みんなの学校」とは全国のパブリックの学校の代名詞

パブリックの学校の理念「**最上位の目的**」

「すべての子どもの**学習権**を保障する」

(憲法26条)

《ミッション》

「自殺」「不登校」を「**0**」に

3 「学校観」を転換する

「子どもを育てる学校」から「子どもが育つ学校」に

学びの主語は**子ども**

子どもの**主体性を奪わない**

奪われた**主体性を取り戻す**

学校は「ある」ものではなく「**つくる**」もの

子どもが自分の学校を自分がつくる

保護者が自分の子どもの学校を自分がつくる

地域住民が地域の宝が学ぶ学校を自分がつくる

教職員が自分の働く学校を自分がつくる

3 「学校観」を転換する

「みんなの学校」

自分がつくる**自分の学校**

すべての人が学校をつくる**当事者**になる

人のせいにしない学校づくり

4 すべての「人」が学びのパートナーに

地域のすべての子どもの「安全基地」に

- 学校をつくる当事者として
「保護者」を「サポーター」に
「文句」を「意見」に変える

- 「地域の学校」
地域住民は「土」 教職員は「風」

- 持続可能な「みんなの学校」づくり
教職員の力と地域の力を融合する
連携「Give & Take」から融合「Win & Win」に

5 学校の組織文化（空気）を問い直す

「指導」は一瞬で「暴力」に変わる
「指導」より「環境（空気）」を

◆ 捨てるもの

- 1 ヒエラルキー
- 2 前例踏襲
- 3 同調圧力

◆ つくるもの

- 1 すべての人が当事者
- 2 創造
- 3 みんな違っていることが当たり前

6 「みんなの学校」はどこでもできる

「みんなの学校」をつくるために

1. 最上位の目的を全教職員で合意する
2. 「目的」と「手段」を混同しない
3. 「主語は子ども」の学校づくりを問い続ける
4. 「すべての子どもに不可欠な力」を言語化し
上位目標におく
5. 「違い」を「対等」に子どもと子どもをつなぐ

6 「みんなの学校」はどこでもできる

学びの目的は

「その子がその子らしく育つ」

それ以外にありません

多様な「みんなの学校」をつくるために

何を捨てますか？